

岩手県の土地改良



「美しき夜明け」 令和2年度「農村景観」写真コンクール風景部門 最優秀賞

No **587** 2021.12



Details

- ・岩手県佐藤農林水産部長へ農業農村整備の着実な推進を要望・・・・・・・・・・ 2
- ・東北農政局内田局長へ農業農村整備の着実な推進を要請・・・・・・・・・・ 2
- ・財務省、農林水産省へ農業農村整備の着実な推進を要請・・・・・・・・・・ 3
- ・農業農村整備事業の一層の充実と推進に向けて・・・・・・・・・・ 4
- ・農業農村整備予算の確保を要請・・・・・・・・・・ 5
- ・千葉武氏が全国土地改良事業功績者表彰を受賞・・・・・・・・・・ 6
- ・桂川俊明氏が農政功労者表彰を受賞・・・・・・・・・・ 6
- ・本会会長に大宮惇幸氏、副会長に及川哲朗氏が就任・・・・・・・・・・ 7
- ・災害発生時の迅速かつ円滑な支援のために・・・・・・・・・・ 8
- ・いわて水土里ネット女性の会が設立・・・・・・・・・・ 8
- ・多面的機能支払交付金に係る長獣害対策(電気柵)現地研修会・・・・・・・・・・ 9
- ・絵画・写真コンクール作品のデータをご活用ください・・・・・・・・・・ 9
- ・UAV（ドローン）の利活用について・・・・・・・・・・ 10、11
- ・土地改良区だより・・・・・・・・・・ 12
- ・編集後記

岩手県佐藤農林水産部長へ農業農村整備の着実な推進を要請 —「収益力の高い食料・木材供給基地」と「一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村」の実現に向けて—

6月1日、本会は岩手県農林水産部佐藤隆浩部長、千葉和彦農村整備担当技監兼農村計画課総括課長、佐々木剛農村建設課総括課長に対し、「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行った。

要請に対し、佐藤部長から、「本県の水田整備率は、東北の中で最も低い状況なため、基盤整備を着実に推進していかなくてはならない。また、農業農村整備事業関係予算の確保に向けた取組を貴連合会と連携し進めていく。土地改良区の運営基盤強化については、賃借対照表の作成・公表への対応に必要な支援や、ドローン等の新技術を活用した農業水利施設の保全管理の省力化に向けた実証調査に取り組んでいるところである。県では、

各土地改良区の実情に合わせた個別の指導などに貴連合会と一体となって取り組んでいきたいと考えているため、引き続きご協力をお願いしたい。」とコメントを頂いた。



【佐藤農林水産部長へ要請書を手交】

東北農政局 内田局長へ農業農村整備の着実な推進を要請 —強い農業のための基盤づくりや農村地域における国土強靱化の実現に向けて—

本会は8月2日、大宮惇幸会長と小野寺道雄副会長、及川哲朗副会長が、東北農政局内田幸雄局長、得田啓史局次長、豊輝久農村振興部長に対し、「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行った。

要請に対し、内田局長から「来年度予算について、概算要求に向けた作業を進めているところである。現場からの要望に応えることができるよう、必要な予算の確保に努めてまいりたい。また、土地改良区の運営体制の強化に向けて、新たな会計制度の定着やデジタル技術の導入による施設管理の省力化が推進されるよう、関係機関と連携を図りながら、引き

続き支援を行ってまいりたいので、ご協力をお願いしたい。」とコメントを頂いた。



【内田局長へ要請書を手交】

財務省、農林水産省へ農業農村整備の着実な推進を要請 —強い農業のための基盤づくりや農村地域における国土強靱化の 実現に向けて—

11月16日、岩手県土地改良事業団体連合会役員が、財務省、農林水産省へ令和4年度当初予算及び令和3年度補正予算の確保、土地改良区の運営体制の強化等に向けた「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行った。

財務省では、鈴木俊一財務大臣に要請を行い、鈴木財務大臣から「土地改良事業を取り巻く状況や重要性などは理解している。この土地改良事業の予算について、進藤金日子先生や皆さんのご努力によって大幅削減前を超える水準まで盛り返してきた。新型コロナの関係で、未だ先行きを見通せない状況だが、財政規律も念頭におき、補正を含めて必要なところに予算を付けていきたい。」とコメントを頂いた。



【鈴木財務大臣へ要請書を手交】

続いて、藤原財務大臣政務官に要請を行い、藤原財務大臣政務官から「農業を行っていく上で水を安定的に供給していくことが必要不可欠であることから、土地改良区の役割が大変重要である。要請

の内容を十分に踏まえて、予算等の検討を行っていきたい。」とコメントを頂いた。



【藤原財務大臣政務官へ要請書を手交】

農林水産省では宮崎雅夫農林水産大臣政務官に要請を行い、宮崎農林水産大臣政務官から「是非、財務省等へ農業農村整備事業による事業効果が発揮されていることを伝えして欲しい。予算確保に向けて一緒に頑張っていきましょう。」とコメントを頂いた。



【宮崎農林水産大臣政務官へ要請書を手交】

農業農村整備事業の一層の充実と推進に向けて —『農業農村整備の集い』が開催—

11月16日、全国土地改良事業団体連合会（二階俊博会長）は、令和4年度当初予算の確保と各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催し、金子原二郎農林水産大臣をはじめ39名の国会議員臨席のもと、全国から約500名が集結した。

開会に当たり二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長は、「令和3年度予算について、令和2年度補正予算を含めて6,300億円を確保することができた。引き続き農家の方々が期待をもって働ける環境を作るため、一致団結して戦っていく必要がある。また、土地改良での男女共同参画を促進し土地改良区の活性化に取り組んで頂きたい。」と挨拶した。



【挨拶する二階全土連会長】

次に、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、藤井チエ子元山口水土里ネット女性の会会長（故人）と奥村千扶子日本ひなた水土里ネット女子会会長の2名に二階会長から感謝状が贈呈された。

続く祝辞では、金子原二郎農林水産大

臣が、「食糧安全保障を強化するため、農家所得の向上と農山漁村の活性化させるための改革を地域に寄り添い、現場を重視しながら進める。」と述べたほか、進藤 金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が、「農業政策、地域政策そして国土政策の実現に向けて取り組むことが土地改良の役割であり、そのための予算確保に向けて、土地改良の効果をしっかりと国民に説明し、理解を得ていくことが重要。」と述べた。



【祝辞を述べる進藤会長会議顧問】

最後に『令和3年度補正予算及び令和4年度当初予算において必要な予算を確保すること』など全10項目の要請案文が全会一致で採択された。



【ガンバロウ三唱をする代表者】

農業農村整備予算の確保を要請

—東北・北海道土地連絡協議会が農水省、復興庁、財務省へ要請—

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：高貝久遠秋田県土連会長）は、11月26日、農林水産省、財務省、復興庁に対し、令和4年度当初予算及び令和3年度補正予算の確保等について要請を行った。

農林水産省では、金子原二郎農林水産大臣へ要請を行い、金子農林水産大臣から「土地改良事業は地域からの要望が多い。こういった地域からの要望に応じていくために予算の確保を頑張っていくたい。」とのコメントを頂いた。



【金子農林水産大臣へ要請書を手交】

財務省では、藤原崇財務大臣政務官へ要請を行い、藤原財務大臣政務官から「担い手への農地集積やスマート農業の導入を推進していくためには基盤整備をしっかりと進めていくことが重要と認識している。また、本日は皆さんから直接お話を聞くことができたので、要請があったこと等を踏まえて予算の検討を行っていきたい。」とのコメントを頂いた。



【藤原財務大臣政務官へ要請書を手交】

復興庁では、富樫博之復興副大臣へ要請を行い、富樫復興副大臣から「農地及び農業用施設の復旧工事について、岩手県と宮城県は概ね終わることができた。一方、福島県は復旧工事を進めているところであり、この完了に向けて、必要な予算の確保ができるよう取り組んでいきたい。」とコメントを頂いた。



【富樫復興副大臣へ要請書を手交】

千葉武氏が全国土地改良事業功績者表彰を受賞 —第43回全国土地改良大会群馬大会において—

10月6日、第43回全国土地改良大会群馬大会が群馬県高崎市のGメッセ群馬及びYouTubeによる動画配信により開催され、千葉武衣川土地改良区理事長が、全国土地改良事業功績者表彰（全土連会長表彰）を受賞した。

この表彰は、土地改良事業の成績が顕著であって、かつ、他の模範となる団体又は個人を表彰するもので、土地改良区の運営基盤強化や、多面的機能支払交付金及び中山間地域直接支払制度に関する功績が評価された。

賞状の伝達は、10月8日に衣川土地改

良区事務所において行われ、本会の千葉匡専務理事から手渡された。



【受賞者の千葉理事長】

桂川俊明氏が農政功労者表彰を受賞 —令和3年度農業委員会大会において—

11月10日、都南文化会館（キャラホール）において、一般社団法人岩手県農業会議（杉原永康会長）主催の『令和3年度岩手県農業委員会大会』が開催され、桂川俊明九戸村土地改良区理事長（他1名）が農政功労者表彰を受賞した。

この表彰は、永年にわたり農林業関係機関・団体の役員等として、地域農業・農村の振興に多大な貢献をされた方を表彰するもので、桂川氏の受賞は、地域における農業経営基盤強化等の功績が認められ、栄誉に浴された。

会場では、県内各地から参集した農業委員や関係者約400名が受賞者へ盛大な拍手を送っていた。

【桂川氏受賞理由】

地域資源である農地や農業用施設を地域一丸となって保全管理することが必要と考え、自らが多面的機能支払交付金の活動組織の代表となって地域ぐるみの活

動を牽引しており、農村環境の保全のみならず、住民相互の結束力強化に大きく寄与している。

また、老朽化が進む農業用水路の整備補修を行うにあたり、土地改良施設維持管理適正化事業へ平成29年に加入、令和元年に水路の整備補修を実施し、受益者負担を軽減しながら用水の安定供給を実現させた。



【表彰状を手にする桂川理事長】

本会会長に大宮惇幸氏、副会長に及川哲朗氏が就任

令和3年7月15日開催の本会理事会において、欠員となっていた会長に大宮惇幸氏が選任され、同日付けで就任しました。

また、これに伴い、新たに副会長に及川哲朗氏が選任されました。

なお、任期は共に令和5年8月31日までです。

○ 就任した役員の職氏名

会 長 大 宮 惇 幸（雫石町土地改良区理事長）

副会長 及 川 哲 朗（岩手中部土地改良区理事長）

○ 就任年月日

令和3年7月15日

【岩手県土地改良事業団体連合会 現役員一覧】

職 名	氏 名	所 属	広 域 振興局
会 長	大 宮 惇 幸	雫石町土地改良区理事長	盛 岡
副 会 長	小野寺 道雄	照井土地改良区理事長	一 関
副 会 長	及 川 哲 朗	岩手中部土地改良区理事長	県 南
専 務 理 事	千 葉 匡	学 識 経 験 者	
理 事	及 川 正 和	胆沢平野土地改良区理事長	県 南
理 事	山 下 正 勝	馬淵川沿岸土地改良区理事長	二 戸
理 事	加 藤 正 明	小本川土地改良区理事長	沿 岸
理 事	阿 部 萬 太 郎	紫波東部土地改良区理事長	盛 岡
理 事	鈴 木 信 一	永沢土地改良区理事長	県 南
総 括 監 事	井 上 良 一	岩手山麓土地改良区理事長	盛 岡
監 事	久保田 泰輝	豊沢川土地改良区理事長	県 南
監 事	千 葉 啓 志	藤沢土地改良区理事長	県 南

災害発生時の迅速かつ円滑な支援のために —令和3年度岩手県農村防災・災害対応支援連絡会を開催—

6月14日、『令和3年度岩手県農村防災・災害対応支援連絡会』が本会で開催された。

本連絡会は、市町村等が行う農業用施設の防災・減災に向けた維持管理活動や迅速かつ的確な災害復旧等を効果的に支援することを目的に、岩手県、岩手土地連、岩手県土地改良設計協会の3者で構成する組織である。

会議に先立ち、岩手県土地改良設計協会藤原繁会長が、連絡会会長である佐々木剛岩手県農村建設課総括課長に対し、「災害発生時における農地・農業用施設の復旧支援に関する協定」が県内全市町村と締結されるよう促進を図ることなど3項目について要望した。

要望に対し、佐々木総括課長は「協定の締結は、災害査定等の迅速な対応に向けて大変重要な手段である。また、新型

コロナウイルス感染症への対応については、国と情報共有しながら、協議、調整を進めていきたい。」とコメントした。

その後、令和2年度に災害査定でドローンを活用した事例などについて報告があり、令和3年度においても、ドローンの活用におけるデータ収集をしていきたいと説明された。これに対し積極的に情報共有していくことを確認し閉会した。



【県農村建設課佐々木総括課長へ要請書を手渡す設計協会藤原会長】

いわて水土里ネット女性の会が設立 —facebook 始めました—

9月13日、『いわて水土里ネット女性の会』設立総会がWeb形式により開催された。

この会は、情報交流や相互の親睦を深めることにより、女性役職員のネットワークを構築するとともに、女性の発想力と能力を活かした農業農村整備事業の展開と土地改良区の円滑な業務推進等に資することを目的に設立したもので、県内水土里ネットの女性役職員67名によりスタートした。

総会では、大宮惇幸岩手県土地改良事業団体連合会会長が挨拶を述べた他、来賓である進藤金日子全国水土里ネット会

長会議顧問、萩原丈巳全国水土里ネット女性の会会長から祝辞をいただき、初代会長に就任した照井土地改良区の菅原みゆき氏が、「会員同士が情報共有し、女性目線での意見を出し合いながら実りある活動にしていきたい。」と抱負を述べました。

女性の会ではFacebookを開設しており、広く情報発信しています。



【Facebook トップページ】

多面的機能支払交付金に係る鳥獣害対策(電気柵)現地研修会 —岩手県多面的機能支払推進協議会主催で実施—

11月18日、岩手県多面的機能支払推進協議会(千葉匡会長)は、山田町土地改良区の協力のもと山田町豊間根地内において、鳥獣害対策(電気柵)現地研修会を開催した。

この研修会は、資源向上支払(共同)活動の鳥獣被害対策の知識と理解向上を図るために開催したもので、今年度は盛岡地域、沿岸地域、県北地域の活動組織を対象に実施した。研修会では本会の新道敬現地指導専門員が防護柵設置の留意点を説明した後に、土地改良区から電気柵監視システムの設置概要や効果等が説

明された。参加者からは設置策の高さやシステム導入のメリットなどについて質問が出され関心を示していた。



【電気柵について説明】

絵画・写真コンクール作品のデータをご活用下さい —本会ホームページからダウンロード可能に—

本会で実施している絵画・写真コンクールの作品を多くの方々にご活用していただくため、本会ホームページ(<http://www.iwatochi.com>)からダウンロード出来るようにしましたので、名刺やポスターなどへご活用ください。



【ダウンロード手順】

- ①本会ホームページからバナーをクリック
- ②年度毎に写真・絵画に分けられたページに移動
- ③ダウンロードしたい作品をクリックし画像保存



- 10 -

○ 水土里情報システムとの連携による施設管理



【水土里情報システムに登録した画面】



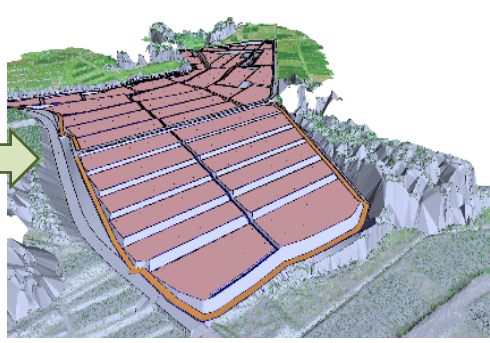
【洪水吐きの状況を収めた動画】

UAVにより撮影した画像、動画を水土里情報システムに登録することで、これらのデータを確実に蓄積し、関係機関で共有をすることが可能です。

○ ほ場整備計画における3D図面作成



【2Dの計画平面図】



【3Dの計画平面図】

2Dの計画平面図を基に3D計画平面図を作成することで、田差や長大法面を立体的に見ることが可能です。これにより、工事完成時のイメージが付きやすくなります。

農業用水利施設等の施設管理の省力化・高度化の可能性検証



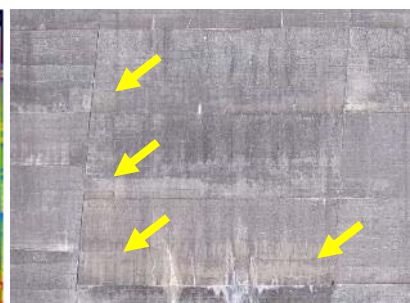
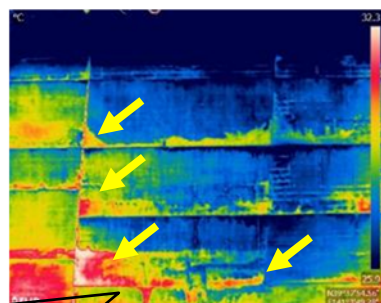
【飛行ルート設定画面】

UAVの活用による用水路の巡回管理やダム、頭首工をはじめとした大規模施設の管理・点検の省力化に向けた検証と実用化に向けた検討を進めております。

飛行ルートを設定できるアプリを活用し、UAVによる自動巡視の実現に向けた検討を進めています。



【幹線用水路水位計測板(UAVによる自動巡視)】



赤外線カメラを利用して、構造物の表面温度を可視化します。そして背面の地下水の状況等を想定し、コンクリートの劣化と相関関係があるか検証しています。

資格取得者の状況

【無人航空機操縦技能 7名】 【無人航空機安全運航管理者 7名】

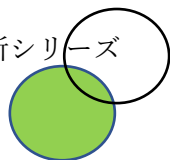
所有機種

【PHANTOM 4 PRO】 【PHANTOM 4 RTK】 【MATRICE 300 RTK】

所有ソフト

【3D-BASE PRO(3D点群編集ソフト)】 【AGRI3D(3D計画図、縦横断図等作成ソフト)】
【Drone2Map(3D点群、オルソモザイク等作成ソフト)】

新シリーズ



土地改良区だより

第1回 水土里ネット雫石 (雫石町土地改良区)

県内位置図



【大宮惇幸理事長(前列左)と職員】

雫石町は盛岡市の西方約16kmに位置しており、東は滝沢市、盛岡市に接し、西は奥羽山系の山々を境に秋田県仙北市に接し、南は矢巾町、紫波町、西和賀町及び花巻市とそれぞれ連山を境界に、北は岩手山の鬼ヶ城稜線を境として八幡平市に接しており、奥羽山系の山脈に囲まれた扇状の盆地を形づくっています。山麓部には広大な傾斜地が開かれ、天然林、牧野、田、畑がのどかな田園風景をつくりだし、田、畑の耕地は葛根田川、雫石川、南川の三河川流域に展開しています。

現雫石町土地改良区は、昭和44年8月に西山土地改良区と雫石町土地改良区との合併が認可され設立されました。

当時の雫石町における農業基盤整備は、大規模な県営土地改良事業計画の実施段階にあり、事業推進の母体となる土地改良区の執行体制の確立が急務となっていたことから、雫石町当局と連携し指導を受けながら、水系を一にする土地改良区の合併を進めたものです。

その後、各種土地改良事業の進展に伴い、土地改良区の体制をさらに強化し事業の円滑化を図るため、昭和46年3月に日影堰土地改良区を吸収合併し、昭和50年4月には上野土地改良区と合併し現在に至ります。

令和3年8月には新事務所が竣工しました。新事務所落成を機に、雫石町の農業発展への決意を新たに、役職員一丸となってより一層の努力を重ね、業務に取り組んでいきます。



【駒木野頭首工】



【土地改良区新事務所】

水土里ネット雫石(雫石町土地改良区)

【理事長】大宮 惇幸

【所在地】〒020-0531 岩手県岩手郡雫石町麻見田3番地2

【連絡先】TEL: 019-692-2626 FAX: 019-692-3028

【受益面積】3,126ha 【組合員】1,788名 【理事】7名 【監事】2名 【職員】5名

編集後記

今号から、県内土地改良区を紹介する「土地改良区だより」を連載します。

本連載では、各土地改良区がどういった経緯で設立され、現在どのような活動をしているかなどを紹介していきます。岩手県内で「農業農村の振興」という同じ目標に向かって活動する皆さんが、お互いの理解を深めるきっかけになればと思います。

また、編集後記もひっそりと始めました。肩肘張らずに綴っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(編集幹事)



発行所 岩手県土地改良事業団体連合会

〒020-0866 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL 019-631-3200

FAX 019-631-3260

<http://www.iwatochi.com>

編集発行人 千葉 匡